

平成22年度 学校自己評価システムシート (山口学院 埼玉平成高等学校)

目指す学校像(ミッション)	礼節を重んじ、勉学と部活動の両立に努めながら心身ともに成長し、卒業後様々な分野で社会貢献できる人材を育成する。		
本年度の重点目標	1. 授業の工夫と改善に努め、生徒が生き生きと学習に取り組めるように心掛ける。	評価	達成度
	2. 生活指導を徹底し、挨拶や礼儀をはじめとする基本的な生活習慣の育成に努める。		A ほぼ達成(8割以上)
	3. 個々の生徒の学力と人格の育成に努め、希望進路実現を図る。		B 概ね達成(6割以上)
	4. 学校行事、部活動への積極的な参加を奨励し、健全な心身の発達を図る。		C 改善の兆し(4割以上)
	5. 今までの環境整備を一步踏み出した、より快適な環境作りを努める。		D 不十分(4割未満)

学校自己評価				年度評価(3月18日現在)		学校関係者評価	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	評価指標	経過・達成状況	達成度	次年度の課題と改善策
1	学習に積極的な生徒が増加した反面、家庭学習の定着や学ぶ意欲について二極化の傾向がうかがえる。授業と家庭学習の良好なサイクルをより多くの生徒が身に付けられるよう、一層の工夫に努める。	授業の改善	<ul style="list-style-type: none"> 初期指導の充実を図る。 授業アンケートの実施。 教科に応じた工夫と実践。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習意欲の向上した生徒が年度当初に比べ増えたか。 家庭学習量が増えたか。 授業に満足しているか。 	<p>入学直後の移動教室で、高校での学習習慣作りの為のプログラムを行うなど初期指導の充実を図った。2年前と比較し、各学年とも家庭学習の習慣化が徐々にではあるが身に付いてきている。授業に満足している生徒の割合も年々増加している。</p>	B	<p>授業時間の更なる確保と授業内容の一層の充実を求める保護者の声が増えつつある。また、これら生徒・保護者の意識変化に対して、既存の授業を謙虚に反省し、より充実した授業を行うべきだと感じている教職員が増えていること、今後の期待が持てる。次年度以降、学校は、それら教職員の意欲を支援する体制整備に取り組むことをお願いしたい。</p>
2	9割近い保護者が、「本校生徒は基本的な生活習慣が身に付いている」と評価しており、本校の生活指導に対しても昨年同様約9割の保護者が「適切である」と学校アンケートで回答を寄せた。細やかな対応についても、人権についての教員研修会などを通じて指導力向上に努めた。ただし、登下校時における電車内のマナーに関しては、より徹底した指導に努める。	生活指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ホームルームや学年集会等での指導充実。 登下校指導。 生徒と教師の信頼関係を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 個々の生徒および保護者が、学校生活を通じての生活習慣向上に満足しているか。 学校に寄せられる苦情が0に近づいたか。 教師と生徒の信頼関係がしっかりと出来ているか。 	<p>一学年を中心に学年集会等で、人権教育やマナー教育に努めて来た。外部からの苦情については、減少傾向にあるが、乗車マナーなどに対しての情報が今年度も数件寄せられた。ゆえに校外でのマナーについては、引き続き指導が必要と感じられる。本校の生活指導に対しては、生徒・保護者共に80%以上の人が好意的であった。</p>	A	<p>生徒指導について「適切である」との回答が本年度実施したアンケート結果でも高かったものの、前年度の90%という数値からやや下がってしまった。この結果を真摯に受け止めて今年度も丁寧な指導を実践し、生徒・保護者と学校との更なる信頼関係強化に努めたい。</p>
3	それぞれの進路目標に応じた補習・補講の内容整備やその方法について再度検証し、積極的な改善をおこなって行きたい。授業の評価は高かったものの、より充実した授業の工夫と実践に努める。	進路指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 生徒個々に応じたきめ細やかな指導。 補習・補講の組織的展開。 小論文指導の充実。 成績不審者に対する補習充実。 	<ul style="list-style-type: none"> 希望進路が実現出来た者が100%に近づいたか。 受験学力向上に向けた補講が組織的に展開出来たか。 昨年度と比較し模擬試験で、各科目における成績の向上が見られたか。 	<p>生徒のアンケートでは、学年が上がると「きめ細やかな進路指導をしてくれる」と回答する者が増えている。希望進路実現や補講の充実についても満足している生徒が多い。しかし保護者・教員間では更なる取り組み強化を望む声もある。</p>	B	<p>進路活動における生徒のモチベーションアップが今後の課題である。簡単に諦めたり、現状で満足してしまうのではなく、壁に向かって果敢に挑戦する生徒を育て応援していく学校でありたい。そのためには、生徒個々の気持ちに響く教育を工夫・実践することを目指したい。</p>
4	平成21年度の学校アンケートでは部活動満足率は8割を超えるなど、昨年に引き続き、生徒・保護者からの評価が高かった。生徒会活動などの自主的な取り組みに関して、より充実させる。	学校行事への参加	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が自主的に活動出来る学校行事の工夫。 文化部発表の機会・内容充実。 	<ul style="list-style-type: none"> 文化祭を中心に、文化部の活動が活発に展開されていたか。 行事をはじめ、学校生活の多くの場面で、生徒が自主的に活動していたか。 	<p>部活動に積極的であると答えた生徒が本年度も80%を超えた。文化祭の他にも、オープンスクールや学校説明会等で文化部の発表機会を増やした。学校行事での生徒の自主的な参加については、今後も充実させていく必要がある。</p>	B	<p>授業時間の確保とのバランスを図りながら、生徒が自主的に活動出来る学校行事の工夫と、文化部発表の機会・内容充実について、更なる取り組みを行いたい。</p>
5	多目的サロンやカフェテリア風食堂などに加え、生徒下足箱や学習机の入れ替えなど、近年校内整備を充実させてきた。今年度は、更に一步踏み込んだ環境づくりに取り組む。	新しい環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> 中庭の利用方法を工夫する。 校内に花や緑を増やす。 音や空気などにも配慮した環境空間の創造。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が校内の環境に満足しているか。 本校の環境に対し来校者の発する言葉が好意的か。 	<p>花の栽培など、より良い環境空間の創造に努めた。本年度来校した方の多くから「綺麗な学校ですね」との言葉を頂いた。在校生と保護者に至っても、その半数以上が本校の校内美化に対する取り組みを評価しているというアンケート結果を得た。</p>	B	<p>図書室や運動施設を中心とする各施設の充実や、校舎ごとの充実度の格差解消などに向け詳細に検討する。それをもとに、次年度から順次その改善に向けた取り組みを行っていく。</p>
						<p>実施日：平成23年 2月 18日</p> <p>学校関係者からの意見・要望・評価等</p> <p>授業の充実に対する生徒・保護者の意識が高まっている事は、学校の発展にとって良いことである。また、これら生徒・保護者の意識変化に対して、既存の授業を謙虚に反省し、より充実した授業を行うべきだと感じている教職員が増えていること、今後の期待が持てる。次年度以降、学校は、それら教職員の意欲を支援する体制整備に取り組むことをお願いしたい。</p> <p>アンケート結果からも明らかだが、実際に学校に係って見て感じられることは、生活指導に対する理解度が高い生徒が多く、生徒と教師の間に温度差が無いという事であった。生活面全体についても、昨年度以上に良好になっていると感じている。今後も、一人一人の生徒と真剣に向かい合い、問題行動が発生しないよう指導願いたい。同時に本校の特色である挨拶運動を中心に据えながら個々の生徒の良い面を伸ばすという、厳しくも温かい指導の実践を切に願っている。</p> <p>学校の進路指導の取り組みに対して、生徒・保護者の評価が昨年より高まっている。その一方で教師の多くが、自らの取り組みに満足しておらず、より充実したものにしよと考えている点を感じられる。今後も、進路目標に応じた細やかな指導を願うと共に、これからの社会の中で必要となる基礎基本の知識修得、思考力・判断力・表現力の向上、学ぶ意欲といった事柄の育成をお願いしたい。</p> <p>部活動・学校行事への参加については、在校生・保護者ともに概ね高評価であった。ただし、部活動施設の充実については、引き続きお願いしたい点である。また、文化部を中心とした生徒たちの取り組みについては、専門知識や学びを深める新たな部の創設など、生徒と教師とで協議し、より活発な活動となるよう期待する。</p> <p>施設・設備の充実については、現状を確認し早急な改善をお願いしたい。特に図書室の充実には、図書離れが深刻な現代において、書物に親しむ人物の育成上急務と感じられる。ゆえに、より多くの生徒・教職員が積極的に足を向けよう、施設・蔵書・運営面等多角的に検討・改善願いたい。</p>	